

INTERVIEW



本を 身近な相談役に

益城町図書館司書
かわせゆうこ
河瀬裕子さん

子どものころから本が好きでした。小学生のころは、学校の図書館の司書さんとお話するのが楽しくて、図書館で過ごすことが多かったですね。そのころから司書になろうと決めていました。

現代は核家族化が進んでいますが、そんな今だからこそ、絵本は大事だと思います。親と子だけの生活では、どうしても言葉が足りなくなってしまいます。絵本を通して、言葉にふくらみを持たせることが必要です。絵本の中の「ころころ」「ふわふわ」などの言葉に子どもが反応したら、「リンゴがころころしたね」などと応えてあげて、会話を広げていくのもいいですね。また、絵本は子どもだけでなく、大人もまた子どものころを懐かしんだり、心温まることのできる本です。

図書館に行って本を読もうと意気込むのではなく、「今日の晩御飯はどうしよう？」「庭木の手入れはどうしたらいい？」というような、日常の疑問などを気軽に図書館で調べて欲しいと思います。読書しようと肩に力をいれずに身近な存在として図書館を利用してほしいですね。



河瀬さん
オススメの一冊

『ルリキュールおじさん』
いせひでこ
理論社

2007年に発売されたこの絵本は、その年の「この絵本が好き！」国内絵本の第1位に輝いた本です。小さな女の子が、何度も何度も読んでバラバラに壊れてしまったお気に入りの植物図鑑をなおしてもらいたくて、ルリキュール(製本の仕事をしている)おじさんを訪ねるという話。美しい挿絵とともに本をなおす工程と本への愛情があふれています。

主学習ルームとして開放しています。
さらに映像視聴コーナーでは、外国映画やアニメ、教育・学習作品を視聴することもできます。図書館に足を運ぶことで、今までにはない図書館の魅力に出会い、余暇の過ごし方が変わるかもしれません。

本やイベントで深まる 親子のきずな

子どものころの図書館での体験が、本を好きになるきっかけだったという人も少なくありません。

図書館は、県内市町村の中で

も児童書数では屈指の蔵書数を誇りますが、親子のふれあいを育み、サポートする一面も持っています。

小さな子どもを持つ親にとつて、絵本を借りるだけでなく、各種イベントを利用して図書館の魅力を味わうことができます。例えば、毎週行われているボランティアによるおはなし会には、多くの親子が訪れ、絵本の読み聞かせや手遊びなどを通して、子どもとのきずなを深めています。

利用する親にとつては、子育てをするうえで、情報交換できる交流の場にもなっています。

